

信 仰

海女は漁の前や一年を通じての節目節目に、身体を清めて神前で祈願することや呪文をとこなえるなど、さまざまな風習があります。また、この地域には海女の信仰を集める神社や仏閣が数多くあります。こうした信仰はすべて自身の身を守り、豊漁と安全を祈願するためです。

●年の初め

地域によって異なりますが、元旦の夜明け前に海に入って若潮を浴び、また、初日の出を拝み、海の彼方の神さまにその年の豊漁と安全を祈願します。

●ゴサイ(海女の休漁日)

ゴサイは「五斎」「御祭」などと書き、海女の日待ちなどともいわれています。夏の土用の頃(旧暦6月25日、26日)、海女は漁を休み、伊勢神宮の別宮である伊雑宮や、鳥羽市の青峰山上にある正福寺にお参りする風習です。

この日に漁に出ると、魔物に襲われたり、サメの姿を見たものは命が無いとされ、海へ出るのはタブーです。

●口明け(一年の作業始め)

その年の最初の漁を「くちあげ」といいます。春になると漁が始まる前に「磯祭り」「浜祭り」として、海に向けて祭壇を組み、お供え物をして、神事やお経を唱えます。また、その年の漁が終わった秋にも感謝のお祀りをします。

●日々の仕事始め

漁の始めには海水をなめてから「ツイツイ」「チュッチュツ」「ツヤツヤ」などと呪文を唱え、また神棚に供えてあった白米を海にまき、青峰さんや竜宮さんにお祈りしてから海に入ります。

信仰を集める神社仏閣

青峰山正福寺

正福寺の伽藍が建ち並ぶ青峰山は標高336mの山で、海からの見通しが良く古くから航行の目印とされてきました。地元の人たちは親しみをこめて「青の峰さん」と呼ぶ、海女の信仰が厚いお寺です。

弘法大師の開基といわれ、ご本尊の十一面観音菩薩は、鳥羽市相差の浜に鯨の背中に乗って現れ、この寺にお祀りされたという伝説があります。旧1月18日に「御船祭」が行われ、志摩はもちろん全国の船舶や漁業関係者の奉納する船旗やのぼりが境内に立てられ、大いに賑わいます。

地域によっては、海女が口明け(漁期の始まり)、磯上り(漁期の終了時)には必ず青峰さんにお参りするところもあります。また、青峰さんのお守りを首にかけたり、髪をくくった元結いのところに青峰さんのお札を縛り付け、磯テヌグイに御朱印をつける風習があります。



御船祭り

伊雑宮

志摩市磯部に鎮まる伊勢神宮の別宮・伊雑宮には、「七本鮫の磯部さん参り」という言い伝えがあります。旧6月24日に太平洋からの矢湾を通って、7匹の鮫が列をなして伊雑宮の大御田橋のところまで上ってくるというものです。ところがある年、一人の漁師がそのうちの1匹をモリで殺してしまい、怒った残りの鮫がこの漁師をかみ殺してしまいました。

それからは6匹の鮫が毎年お参りに来るというので、その日はゴサイと言って、海女は漁を休んで伊雑宮にお参りする習慣があります。また、鮫は竜宮の使いであるとするところもあり、25日を「もどりゴサイ」としたり、その前後をゴサイ日としている地区もあります。

海士潜女神社

鳥羽市国崎町にあるこの神社には、国崎から伊勢神宮へアワビを献納するきっかけとなった海女「おべん」があま御前として祀られています。地元の花女たちの厚い信仰を受け、また「めまい除け」に靈験あらたかだといわれ、訪れる人が後を絶ちません。毎年7月1日の大祭には、伊勢神宮の舞姫がみやびな舞を奉納します。



国崎の神祭

石仏(潮仏)

志摩半島の先端にある御座港の一角、満潮になると海に沈むところに「潮仏」と呼ばれるお地蔵さんが祀られています。その昔、弥吉という老人の夢枕に地蔵が現れ、「私は縁あってこの地に現れた。海水の浸るところに祀り、決して高い場所に祀ってはいけない。信心すれば腰から下の病気に効くであろう」とお告げがありました。そのため海の中に祀られ、下半身の病や安産祈願にご利益があり、多くの信仰を集めています。女性に靈験あらたかとされたことから、海女の信仰が厚く、お参りする姿が良く見かけられます。



御座の潮仏

片田稲荷

志摩の片田にある稲荷神社は農業の神様であると同時に、お使いの狐が魚を好むことから漁業の神さまでもあるとされてきました。社殿の天井には丸山派の画家による48枚の絵が描かれています。